



7月21日 都島神社 夏祭「子供太鼓」風景

和



第21号 (平成23年 夏号)

編集：大阪市立総合医療センター 広報小委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)

<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu270/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公的病院をめざす。

Humane

人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。

High-Technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

～ 掲載内容 ～

- コメディカルの紹介 言語聴覚士
- 東日本大震災 「大阪市こころのケアチーム」の活動報告
- 疾患解説シリーズ
食道がん・胃がん・大腸がん
- 当センターが取り扱うがんの種類
- 外来受診のご案内

言語聴覚士のお仕事紹介

言語聴覚士は国家資格を持つ専門職で、聴こえやことば、食事に関連したことに不安を持つ方に、検査や助言、指導訓練を行います。大阪市立総合医療センターでは4つの診療科（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、小児耳鼻咽喉科、小児言語科）において、医師と連携しながら専門的な業務を行っています。

リハビリテーション科では、脳血管障害などの後遺症により、失語症（言いたい言葉が出てこない、相手の言葉がわからないなど）や構音障害（ろれつが回らない）、記憶や集中力、判断力の低下といった高次脳機能障害を発症した患者さんに対し、機能回復を目指したりハビリテーションを提供しています。また、「飲み込みの障害（嚥下障害）」のために誤嚥性肺炎で入院された方に安全に口からの食事を楽しんで頂けるよう、嚥下機能の向上に向けたリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。



耳鼻咽喉科及び小児耳鼻咽喉科では、生後まもない乳児から高齢の患者さんに至るまで、各々の年齢に応じた種々の聴覚機能検査を行っています。その結果に基づいて医師が治療や補聴器の処方を行い、その後、言語聴覚士が聴力の程度やことばのききとりの検査結果をもとに、補聴器の調整や相談、評価を行います。また、人工内耳の術後には、人工内耳の調整や聴こえとことばの訓練指導を行い、聴覚言語機能の向上に努めています。さらに小児耳鼻咽喉科では関連教育機関とも連携を図りながら、難聴児のことばの発達の支援も行っています。



小児言語科では、「ことばが遅い」「発音がはっきりしない」「ことばがつまる」「うまく食べられない」などの問題や、口蓋裂、後天性の病気（脳梗塞、脳炎、てんかん）によることばの問題を抱えた子どもさんに対して、検査や指導を行っています。言語検査としては、コミュニケーションの様子やことばの理解力、話しことばや発音、食べたり飲んだりの評価を行います。ことばは聴力や発達と深く関連するので、院内の小児医療センター各科と連携しながら、子どもさんが豊かなコミュニケーションを育めるようサポートしております。

私たち言語聴覚士は、今後もより良い診療を提供できるよう、努力を重ねていきたいと思っています。

■ 東日本大震災の被災地に派遣した「大阪市こころのケアチーム」に参加しました。

◆大阪市は4月2日から5月29日まで東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市に大阪市こころのケアチームを派遣しましたが、大阪市立総合医療センターからは精神科医8名、看護師10名が参加しました。現地では避難所の巡回診療を行うほか、釜石市の保健師や全国各地から派遣されている保健師、医療救護班と連携して、被災者の心のケアを行いました。写真は各地から派遣されている医療救護班および保健師とのミーティングの様子です。



◇看護師の活動

こころのケアチームとして、総合医療センターのすみれ8病棟（成人精神神経科）・さくら8病棟（児童青年精神科）から、精神科看護経験のある看護師を被災地に派遣しました。活動日数は3日間1クールで、1日目は、前クールから引継ぎと活動打ち合わせ、2日目・3日目に相談者への心のケア活動を行いました。（19クールの相談総件数328件）

スタッフは何ができるか分からない不安を感じながら、少しでも被災地の方の役に立ちたいという思いで、進んで参加し、貴重な体験と共に心痛む思いを胸に帰阪しました。

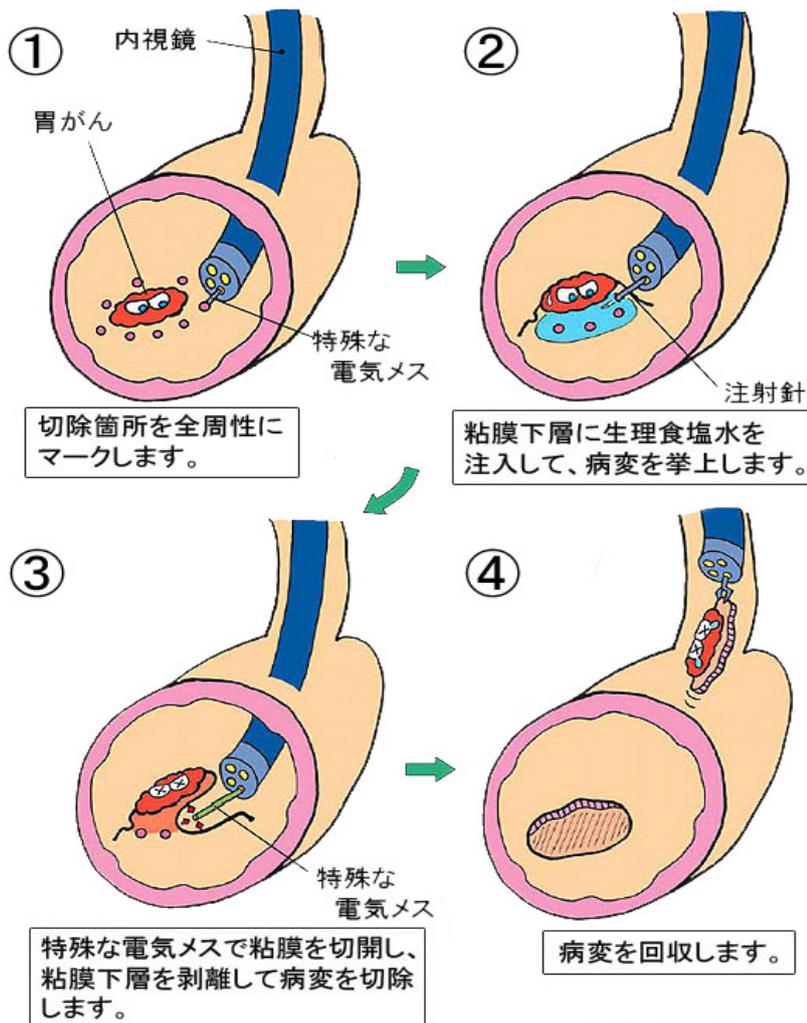
スタッフによる活動レポートからは、「話して感情を表現することで、自分の心と向き合う作業ができることを感じてもらいたい」「長期的な包括的医療支援としては、被災者を支える方々の支援も重要である」「被災者は、家族の死を含め喪失を認めると精神的に耐えられないという思いから、表面上は明るく振舞い、心の問題に直面しないようにしていると感じた」「今、ここだけの関わりではあったが、心のケアへの潜在的ニーズは高く、今後のケアの必要性を感じた」「学校との連携・高齢者の福祉や介護との連携が必要」「支援の終盤では、高齢者や独居者の仮設住宅へ移ることへの不安や、避難地域で生活していた人と、他の地域から避難してきた人たちの間の軋轢など、状況の変化に伴う新たな問題が見えてきている」などの報告がありました。短期間の初期・初動の活動の中で、課題を感じつつも無事に活動を終えられたことに感謝したいと思います。

■ 疾患解説シリーズ

消化器内科部長 根引浩子

食道がん・胃がん・大腸がんの内視鏡を用いた治療
(内視鏡的粘膜下層剥離術)

早期の食道がん・胃がん・大腸がんはいずれも、一定の条件に入るものであれば、消化管内視鏡を用いた切除で治療することができます。その条件とは、リンパ節や他の臓器へ転移することがほとんどないということがわかっているという条件です。つまり、浅いところにとどまっていたり、毛細血管などに顔を出していないがんということになります。このようながんであれば、胃カメラや大腸ファイバーを使ってがんの部分だけそぎとる治療（内視鏡的粘膜下層剥離術）で治すことができます。その条件に入っているがんであるかどうかの判定には、通常の胃カメラや大腸ファイバーによる検査以外に、超音波内視鏡といって、食道や胃に超音波を当ててがんの深さを見る検査が有用です。



内視鏡的粘膜下層剥離術の方法を左の図に示します。胃がんも大腸がんも日本人に多いがんですが、早期に見つかったがんなら、この方法によって治すことができます。

おなかを切ったり、おなかにカメラ（腹腔鏡）を入れて胃や大腸を大きく切り取る手術を受けなくてもがんが治せるのです。食道がんでも同じです。早期の状態のがんは、何も自覚症状がありません。40歳以上になれば、毎年胃のレントゲンや胃カメラによる食道と胃の検診、便検査による大腸がん検診をお勧めします。

■ 当センターが取り扱うがんの種類とその治療

	手術	化学療法	放射線療法	集学的治療	セカンド・オピニオン対応
肺がん・縦隔腫瘍	○	○	○	○	○
乳がん・乳腺腫瘍	○	○	○	○	○
胃がん・胃腫瘍	○	○		○	○
大腸がん・大腸腫瘍	○	○		○	○
肝がん・肝腫瘍	○	○	○	○	○
食道がん	○	○	○	○	○
胆嚢がん・胆管がん	○	○	○	○	○
膵がん・膵腫瘍	○	○	○	○	○
前立腺がん	○	○	○	○	○
膀胱がん	○	○		○	○
腎がん	○	○		○	○
尿路がん	○	○		○	○
精巣がん	○	○	○	○	○
血液腫瘍(白血病、リンパ腫など)		○	○	○	○
子宮がん	○	○	○	○	○
卵巣がん	○	○	○	○	○
脳腫瘍	○	○	○	○	○
骨軟部腫瘍	○	○	○	○	○
頭頸部腫瘍	○	○	○	○	○
小児がん	○	○	○	○	○
皮膚腫瘍	○	○	○	○	○
原発不明がん		○		○	○
性腺外胚細胞腫瘍		○	○	○	○
眼腫瘍	○		○	○	○

◆放射線療法のうちリニアックは平成23年12月まで休止

■ 外来受診のご案内

当院で受診を希望される方(初診)は、かかりつけ医(他院)の紹介状(診療情報提供書)をご用意いただき、予約センター〔TEL (06)6929-3634〕で診察予約のうえご来院されますと、待ち時間も短く、スムーズに受診していただけます。

なお、**整形外科、形成外科、精神神経科、児童青年精神科、小児脳神経外科、小児言語科、口腔外科は完全予約制**です。予約がないと受診できません。